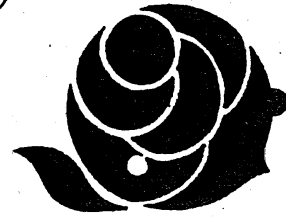


Rosa Plumula

ローザ・プルムラ



●茨城大学・大学教育研究開発センター

ニュースレターNo.28

目次

巻頭言	1
「大学教育研究開発センター」 って何?	2
専門部会から -諸君の受講を待っています-	3
聞いてほしい私の意見 -先輩から一言-	6
Voice -私の出会った素敵な授業-	8
教養教育古今東西 「稼ぎ」と「つとめ」ができて一人前	9
掲示板コーナー	10
つぶやき	10

(平成16年4月発行)

巻頭言

学長 宮田 武雄

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

私達の人生において、大学時代はそれ以前ともそれ以後とも異質の時代であることを、卒業後数年が過ぎた頃実感するでしょう。大学時代の特徴は、前後の時代に比較して自由度が大きいこと、その時代に居る人達の知性と感性が共に極めて豊かであること、その時代の過ごし方が私達の将来に大きな影響力を持つこと、などであると思います。かけがいのない貴重な大学時代を、自分の将来のために悔いのないように活用してください。

まず、卒業後の社会の中で、自分自身をどのような位置に置きたいのか、考えてみましょう。自分の好きなことや得意なことは何か、

それらと将来の社会との接点は何か。これらに関する考察の結論に到達するために、大切なことが二つあります。一つは、授業や体験を通して広く学び深く考え、先入観にとらわれず既存の枠を越えた発想で、近未来社会に生きる自分を思い描くことです。この過程で、新しい自分を発見するかも知れません。もう一つは、「自分で」考えることです。多様な考え方に耳を傾けたり身近な人々に相談することは大切ですが、それらを消化吸収して主体的に考え自分の責任で結論を出しましょう。自分で決めることが、強力な推進力になります。自分で選んだ自分の道を進むためなら、その完遂に向けてあらゆる困難を克服できるからです。

次に、将来の自分のために、大学時代の今こそ学んでおかなければならないことは何かを考えましょう。事に臨んで最後に頼りになるのは自分です。大学時代を活用して、頼れる自分を創りましょう。昨日よりも今日、今日よりも明日へと成長を積み重ねることで、卒業の時、今の自分を越えた逞しい自分になっているでしょう。皆さんが卒業後の社会で、自信に満ちて自分の道歩み、それぞれの幸せを獲得することを祈っています。

くれぐれも健康と安全の保持に留意して、有意義な学生生活を過ごしてください。

「大学教育研究開発センター」って何？

大学教育研究開発センター

センター長 曾 我 日出夫

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。茨城大学にはどこの学部にも属さず、〇〇センターと呼ばれる所がいくつかあります。大学教育研究開発センターもその一つですが、一体何をしているところでしょう。実は、このセンターは新入生のみなさんにとってたいへん関係の深いところなのです。大学の授業科目は大きく教養科目と専門科目とに分けられますが、新入生のみなさんは教養科目を多くとることになります。大学教育研究開発センターは、この教養科目を編成したり、改善したりするためにあるところです。ですから、これから何度かこのセンター内にある教養教育係に足を運ぶことになるでしょう。

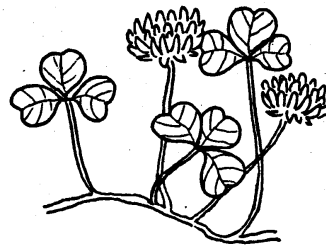
ところで、教養科目って何のためにあるのでしょうか。教養を身につけるため？ 確かにその通りなのですが、それではあまりにも漠然としていて、その科目が具体的に何を目標としているのかははっきりしません。大学では、具体的に次の6項目が掲げています。

- 1) 心身の調和を図り、生涯にわたる人生設計への基礎を培う。
- 2) 専攻する学問と異なる専門分野の学問に触れることにより、多種多様な文化と価値観を理解し、幅広い視野を身につける。
- 3) 学際・複合的学問分野に触れることにより、総合的・全体的に物事を捉える態度を養う。
- 4) 物事を主体的に判断し、実証的な態度や批判的能力を身につける。
- 5) 専攻する学問の基礎を修得することによりその学問の基本を理解する能力を培う。
- 6) 国際化・情報化の社会に主体的に対応できる能力を培う。

外国語科目、健康スポーツ科目、・・・は、このどれかの（あるいは複数の）目標を達成するために置かれています。

さて、実際に授業をとろうとすると、多くの場合かなりの選択の幅があります。どれを選ぶかに非常に役に立つのが、入学のときに配った「シラバス」とか「授業計画」とか呼ばれている分厚い本です。この本から一つ一つの授業内容をかなり詳しく知ることができます。多少時間がかかっても、よく読んで授業選びに役立ててほしいです。

ここで授業を選択するときぜひ頭においてほしいことがあります。何かを習得するというとは、何かが残った中に残るということの意味です。その残ったものが「知識」とか「技能」とか呼ばれるものです。だからといって、この最後に残る知識をひたすら取り込むという努力が当たりかという、ちょっとそれは疑問です。知識は、必要に応じてそれが使えなければ意味がありません。しかも大抵の場合直接あてはめられるような状況にはなっていません。そういうときでも役に立つ知識であるには、納得して得た知識である必要があるのです。納得するには、やはり時間がかかっても、なぜ著者がそんなことを言おうとしたのかその思いを再現する（追体験する）ことが必要です。ですから、いくつかの科目については、予習復習の時間を十分とって、納得するところまで追求してほしいです。恐らく、将来本当に役に立つ知識はそうやって習得したものだけでしょう。



専門部会から — 諸君の受講を待っています —

外国語科目専門部会長 西山 國雄

受験勉強から開放され、皆さんにとって「勉強」とはこれからは新しい意味を持ってきます。暗記や長文の謎解きのためだった英語の勉強は、大学では社会に出て役立つため、そして研究のためになります。近年、社会に出ての英語の重要性は益々増してきています。茨城大学では将来の仕事に使える英語のコミュニケーション能力を養成する授業を多くたてていて、今後も拡大していく予定です。皆さんも積極的に参加して下さい。

英語のもう一つ重要な点は、研究に欠かせないということです。皆さんは卒業までに、それぞれの分野でテーマを決めて研究に打ち込むこととなりますが、現在あらゆる分野で、最新の研究事情を知ろうと思えば、英語の文献を読まなくてははいけません。このための授業も用意してありますので、大いに活用して下さい。英語の他にも今まで習ったことのない外国語（未修外国語）もあります。新しい言葉を学ぶことは、それを話す人の文化、考え方を学ぶことにつながります。グローバル化が進む一方で、民族独自の文化を認め合い、尊重する態度は今後重要になってくるでしょう。こうした観点からも新しい外国語にチャレンジしてみてください。

健康・スポーツ科目専門部会長

松坂 晃

日本人の平均寿命は世界一ですが、寝たきりで老後を過ごしている人も多く、介護なしにいきいきと活動できる「健康寿命」が問題となっています。最近ではSARSや鳥インフルエンザなどの感染症が話題となっていますが、寝たきりの背景には脳血管疾患や骨粗鬆症があり、「健康寿命」を縮めている圧倒的原因は生活習慣病です。皆さんは今もっとも健康で元気があり病気とは無縁ですが、実はこの生活習慣病の出発点は男子では大学生、女子では高校生と考えられています。

身体活動から遠ざかっていないかどうか、ちょっと考えてみてください。

アメリカではHealthy People 2010と銘打って2010年を目途とした健康的な生活習慣づくり運動が進められています。それによりますと、中等度（元気よく歩く程度）の運動を毎日30分以上、さらに高強度（ジョギング程度）の運動を週3回、一回20分以上必要であるとし、これらを満たす人の割合を30%にまで引き上げることを目標にしています。日本では週3日以上運動している人の割合は10%程度です。茨大の学生について調査したところ、男子では17.5%ですが、女子では6.7%しかありませんでした（体育関係学科所属学生を除く）。高校までの受験に追われた生活から開放されて運動に励む人も多いのではと考えていましたが、予想外に運動している学生は少ないという状況でした。

健康・スポーツ科目では、こうした運動不足を解消し、さらに望ましい生活習慣に関する情報を提供したいと考えています。運動不足ばかりでなく、喫煙や飲酒、ストレス、性感染症、栄養の偏りなども身体をむしばむ不健康な生活習慣のひとつです。こうした内容も教科書をとおして学習します。また、生涯スポーツに発展できるようにスポーツ技術の習得を図ります。週一回程度の授業でスポーツ技術の習得なんてできるの？とお考えかもしれませんが、これが結構できています。高校までに課外活動などを通じて習熟した種目を選択する人が多いのですが、将来の選択肢を増やす意味で新たな種目に挑戦してみてください。カヌーやウインドサーフィンといった他では体験できない種目も用意されています。

「健康」は「国際」や「環境」、「情報」とならぶ現代のキーワードです。自分の健康のみならず社会の健康も考えることができ、さらに将来、仕事をしていく上で何らかのヒントになれば幸いです。

情報関連科目専門部会長

鹿子嶋 憲 一

高校と大学の違いは何だろう。同じようにも思える。しかし基本的な仕組み、前提に違いがある。このところを意識し、大学生活を有意義なものにできるかどうかによって、卒業時には大きな差がついてしまう。さらに重要なのは、大学は社会に出る最終教育機関である。ここで身につけるべきものを身につけないで卒業すると、「一生挽回できない」ことになる。

高校では、先生のほうが入れ替り立ち替り来て同じ教室で授業を受けた。しかも数学、英語、国語などは週に数回、学校によっては毎日その科目の授業があり、予習復習をしなくとも授業が「チンプンカンプン」ということはなかった。また先生とのつながりも週に何回も顔を合わせることで親近感が湧き、廊下で会えば互いに挨拶するようになる。コミュニケーションがなされていた。大学ではこのあたりがいかにも「粗」である。授業における学生と教員の関係も「粗」である。「この科目を勉強して何の役に立つのか」、「何のためにこの科目を勉強するのか。」この疑問に答えるのは学生自らである、というのが大学における教育の前提であった。質問があれば受ける、講義の内容を出発点として大いに議論もする、というのが大学の仕組みであった。そしてこれがうまく機能していた時代もあった。高校までは勉強に対する強制力が何らかの形であり、先生とのコミュニケーション環境も自然と備わっていた。実際、この二つは学習の効果をあげるための「基本中の基本」であり、時代が変わっても普遍的鉄則である。しかし大学ではこのことが自然に実現される仕組みにはなっていないのである。それは、「学生は勉学に対する強い意欲があり、自主的に勉学の方針を決められる大人である。相手の立場を理解でき自分の状況を言葉で伝えられる。」ということが前提となっていたからである。

しかし現実にはこの前提は不確実なものとなり機能しなくなりつつある。教育効果、学習効果をあげる上で不可欠な要素が消えつつある状況と言える。情報関連科目は演習中心なので、「わかる、わからない」がその場ではっきりする。ティーチングアシスタントが

ついているので質問、討論がしやすい環境が整っている。情報科目の授業では、単に技術習得だけに終わらせず、「二つの学習の基本則」をしっかり身につけることを意識して授業に臨んで欲しい。学生の皆さんにとって大学は最終の学習機関である。ここで有意義な過ごし方ができるかどうかによって、「一生が決まる」と言っても過言ではない。悔いのない大学生活を築くことを祈念している。

『素直に吸収してください』

人文科目専門部会長 有 富 美代子

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。“受験生”という立場は、誰にとってもストレスフルな日々だったと思います。今や、垂れ込めていた雲は消え、頭上には青空が広がっています。茨城大学でのびのびとそして大いに勉強しましょう。

これからの4年間は、「自分自身」や「人間」・「社会」・「世界」そして「人生」について深く・広く考えながら、将来設計をする時期です。この意味で、人文の分野で開講されている授業は、皆さんの思考の良い糧となるでしょう。

人文の分野では、「哲学」「心理学」「歴史学」「比較文化論」「文学」「言語学」「芸術」「コミュニケーション論」という8つの授業科目が開講されています。各科目の中にいくつかの授業があり、それぞれに興味深い「授業題目」が示されています。シラバスをよく読んでその授業の目的やスタンスを理解した上で受講してください。

“大学では、自分がやりたい専門的勉強が出来ると思ったのに、なぜ「関係のない」教養科目を受講しなければいけないのか。”という声を聞くことが少なくありません。しかし、ちょっと考えてみて下さい。あなたは、自分のことをどれくらい解っていますか？ また、“電話番号や郵便番号が7桁なのはなぜか知っていますか？一流といわれる人にはお喋りな人が多いのはなぜですか？好きなものを覚えやすいのはなぜ？”これらのごく日常的なことをどの程度説明できますか？人間とはどのような存在ですか？外国の人を理解

するにはどうしたらいいですか？未来社会をどのように予測しますか？人が生きていく意味は？

これらの問いは誰にも「関係があり」、誰でも一度は考えそうなことです。人文の分野の授業からは、このようなことを考えるための知識や方法・ヒントが得られます。古今東西の先達の深い考察にふれることが出来ます。すべては、あなたが生きている「この世」の中にあるものであり、「関係ない」ものなどありません。あなた自身のアンテナの感度を高めて、多くのことを素直に吸収してみてください。その結果得られた総合的・感覚的なものが後に必ず役に立ちます。

社会科目専門部会長 齋藤 義則

皆さんは、社会で起こっていることで、「何か変だ」、「何かおかしい」と疑問に思っていることがたくさんあると思います。

イラク戦争はなぜ起こったのか、経済不況からなぜ脱出できないのか、日本の町並みはどうしてこんなにバラバラなのか、狂牛病や鳥インフルエンザはなぜ止められないのか、霞ヶ浦で鯉が大量に死んだのはなぜか、子供の虐待、家庭内暴力はなぜ増え続けるのか、など疑問はつきません。

社会科目は、そのような疑問が生じる社会的背景とどうしたら改善できるかについて、自分で考える機会を提供します。社会現象を解説する楽しみを知る機会でもあります。

しかし、授業を受けているだけでは、解説する楽しみを十分味わったり、自分で考える能力を高めることはできません。なぜなら、知識として頭（脳）に集積されるだけでは考えたことにはならないからです。実際に問題を抱えた場所に行き、何が問題でどうしたら改善できるかを、知識を使って知恵を出す努力をしなければ頭（脳）は働きません。実践的な行動が伴わない知識は、社会に対する愚痴を増幅するだけになりかねません。

既成概念にとらわれない、皆さんの社会に対するみずみずしい感性を大切にしながら、是非、教室と地域社会の現場とを行き来する楽しみを知ってもらいたいと思います。社会科目がそのきっかけになるよう、担

当教官は皆さんが受講されることを楽しみにしています。

自然科目専門部会長 金子 正夫

新入生の皆さん入学おめでとう。これまでは受験勉強で大変だっただろうと想像しますが、試験のための勉強は本来間違っています。これからは試験のための勉強ではなく、自分のための学問をして下さい。これまでは先生方が丁寧に（手取り足取りで）教えてくれたかも知れませんが、大学に入ってからの学問は自分であるのが原則です。“教育”とは引き出すという意味であって、皆さんの能力を引き出すのが教師の役目です。授業中に教えられる知識の量は極めて限られています。自分で本を読んで勉強するのが、これから皆さんが始める学問です。

教養科目では、専門の勉強を始めるための基礎知識や、人間として成長するための科目を習得することになります。皆さんが人間として成長するには日常生活態度が大事です。授業を聞いて事足りりというのではなく、日頃の読書や友人、先生などとの会話などが皆さんの教養にとって重要です。今はインターネットで必要な知識は得られるとされているかも知れませんが、依然として読書は大事です。色々な本をできるだけたくさん読んでください。

専門科目では、皆さんが将来社会で職業生活を送るのに必要な学問を習得します。しかしながら現在では専門科目は昔よりずっと難しく、奥行きも皆さんの想像以上に深くなっています。従って学部の授業で教わるのは、各専門科目の基礎のさらにその入門編とってください。もっと本格的に勉強するには大学院で、あるいはご自分で勉強するしかありません。

大学はあくまでも最高学府と称される場であって、一国の文化・学術の水準が反映される場所です。皆さんのこれまでの受身の態度が今後も続くなら、最高学府のレベルは低下するしかありません。現にその傾向が強まりつつあります。入学の動機が何でも、卑しくも入学したからには、最高学府の名に値する学問を身につけるべく努力してください。ご自分の将来は自分で切り開くしかありません。加えるに、世界の将来

は皆さんに託すよりほかにないのですから。

総合科目専門部会長 木村 競

自分が興味をもった社会の出来事や学びたい事柄などについて、社会、理科、英語といった特定の教科の枠に分類するのが難しいと思ったことがあると思います。総合科目（教養科目の中の一つのグループ）には、そのようなことに関わる科目が集められています。

もう少し詳しく言うと、環境問題のように様々な分野に関わりのあるテーマを扱ったもの、現代社会を生きていく上で見逃すことのできない事象を取り上げたもの、様々な学問に共通に関わる考え方を新しい問題意識から理解しようとするものなど、総合性や学際性の高い内容の授業が集められています。

全体として、総合的・全体的に物事をとらえる広い視野や、主体的・批判的な判断力を養うことをめざしています。このような力は、生涯にわたって充実した生活を送るために、学び続けていくために欠くことのできないものなのです。

このような特徴を十分に出すため、総合科目では、複数の教員で担当したり、多くの学外講師を迎えたり

する科目が数多く用意されています。授業の進め方も、講義を聞くというだけでなく様々なものがあります。このことは他の教養科目と比べた時の総合科目の特徴の一つです。

したがって、総合科目は内容的にも授業形態としてもとても多様です。ですから、授業を選ぶ際に授業案内（シラバス）をよく確かめることが重要です。授業案内（シラバス）を参考にして、みなさんの問題意識にあった科目を選んでください。

皆さんは、各学部の専門科目を学ぶことで、それぞれの専門分野についての知識を身につけていくことと思います。しかし、専門の細分化が進んだ現在では、逆に、自分が学ぶ専門分野を支える知的なバックグラウンドや自分の専門分野以外の知的活動のエッセンスを知っておくことが求められています。考え方の引き出しを多く持つことが必要なのです。ぜひ、専門分野を学び始める前に、そして学びながら、総合科目の多様な授業を履修することで、このような引き出しをたくさん身につけてほしいと思います。

総合科目は大学で学ぶことの楽しさ、面白さを味あわせてくれる教養科目です。充実した学習を期待しています。

聞いて欲しい私の意見 -先輩からの一言-

秋元 沙文芳（理学部4年）

ご入学おめでとうございます。新入生のみなさんは、おそらく晴れ晴れしい気持ちでいることでしょう。私は、みなさんと入れ違いで茨城大学を卒業しています。私の大学生活はあっという間でした。しかし、あっという間でしたが、充実していました。この先ずっと、付き合っていけると考える友人にたくさん出会えましたし、いろんな経験ができました。これから、大学生活をおくる皆さんへのメッセージということで、筆をとっています。

大学生活は、今までの学生生活とは全く異なります。何をこの4年間で経験するかは、自分次第です。つま

り、自由が増えるということです。自分で見て、感じて、選択していかなくてははいけません。高校までのようにこまめに注意してくれる先生いませんし、時間割も自分で決めます。この様な環境で何をしたらいいのか、私は最初戸惑っていました。勉強はもちろんすべき事です。しかし、それだけでいいのでしょうか？私は違うと考えていました。サークルにも入りましたし、バイトもしました。旅行にも行きました。この自由な環境を生かして、どんどんいろんなことに挑戦した方がいいと思います。サークルでもいいし、バイトでもいいし、旅行でもいいし、大学外の活動に参加してもいい。夏休みも春休みも2ヶ月あります。こんなに長い休暇は、大学生活でのみ得られる貴重な時間です。

是非、いろんなことに挑戦してください。

いろんなことに挑戦するといろんな人に出会えます。それも貴重です。同じことに興味を持つ者同士が語り合う時間は十分にあります。出会った人達といろんな時間を共有することで視野を広げることもできます。年代の違いや性別の違い、国籍の違いなどで刺激を受ける事が多々あります。また、コミュニケーション能力を高めることもできます。何をするにも人との関わりを断つことはできません。就職活動をしていて、つくづくそう思いました。どの職業に就くにしても大切です。相手を理解して、自分を理解してもらわなくては、先に進めません。同じ学力を持つ者同士が競争する場合、結局はコミュニケーションの差が大きいものになります。

最後に、大学生活は、確かに自由です。同時に、自分の人生に対して責任重大です。誰の責任でもなく、全てが自己責任です。落第するのも、単位を取得するのも。このことを忘れないでください。

益子 沙織 (工学部4年)

私は工学部の物質工学科の4年に在籍しています。物質工学科では有機化学、無機化学や分析化学といった、化学系の講義のほかに材料系の授業を受けることが出来ます。このように、幅広い内容の勉強が出来るというのが私たちの学科の大きな魅力だと感じています。

1年生から3年生までは、講義が主で、特に2年以降は専門科目の割合が増えるため授業についていくのが大変でした。しかし、それを乗り切って4年生に進級すれば、研究室に配属されます。そうすると、思う存分実験をする時間が出来ます。また、講義を受けていた3年生までの環境とは異なり、毎日を研究室で過ごすこととなります。研究室では、指導教官の先生をはじめ、大学院生の先輩や4年生の仲間と充実した日々を過ごしています。

私は現在、地域コンソーシアム(経済産業省のプロジェクト)に関わっています。企業や研究所の人たちと共同で研究を行うことで、他では出来ない良い経験をしています。これから大学院に進むのですが、この

プロジェクトをとおして大学の外の研究者の方々にも教えてもらいながらスキルアップをはかろうと思っています。

日立キャンパスに来て、一番初めに感じたことは、男子学生の割合が多いということです。ただ、物質工学科は工学部のほかの学科に比べると、女子学生の割合が多く研究室にも女性の先輩がいますので気が楽です。また、水戸キャンパスに比べると、大学の近くに飲食店があまりありません。そのために、昼食を生協で済ませる人が多く、昼食時には生協が混み合います。近くに遊ぶ場所もあまりありませんが、研究に打ち込むにはよいところかも知れません。桜の木が多く春の花見のシーズンには町中がピンクに染まります。

部活やサークルに入るのもよし、アルバイトに精を出すのもよし。何か目標を持って生活することで、有意義な大学生生活を送ってください。ただし、大学生であることを忘れず、勉強にも真剣に授業に取り組んでください。



Voice - 私の出会った素敵な授業 -

田村 亮 (人文学部2年)

「私の出会った素敵な授業」、それはレトリックの授業だった。授業は佐藤信夫著の「レトリック感覚」という本を教科書代わりに、学生たちがブックレポートをするという形式で進められた。その本ではレトリックについて、そして様々な種類の比喻表現が解説されていた。また先生や学生が小説などで使われている比喻表現を探してきて、それらを紹介するなどした。それまでの私は、比喻表現と聞いても直喩と隠喩の2つしか思い浮かばない程度だったが、授業を進めていくにつれて世の中には多くの種類の比喻表現が存在し、また普段気にとめないだけで実はあらゆる所にそれが使われているのだと知った。レトリックとはなにも比喻表現だけでなく、「言葉を巧みに用い、効果的に表現すること、そしてその技術」「独特な、ちょっと変わった言葉づかいによる興味や挑発」だとその本には書かれている。つまり、言い換えや例えだけでなく、「相手の意識を引きつける表現方法」がレトリックであると私は解釈した。そう考えると、私たちにおもしろいと感じさせる気のきいた文句にふくまれた「ユーモア」や韻を踏む「リズム」もレトリックと言えると思う。

高校生の時に夏目漱石の『こころ』を読んで以来、文体がなんとなく心地よくて、漱石の小説を何冊も読んでみた。今考えてみると、私が感じた心地よさの原因の一つは漱石のレトリックのせいではなかっただろうかと思う。『草枕』のあの有名な冒頭部分も、実はレトリックが使われていると初めて知った。なんとなくひきつけられたのは、漱石の表現の世界に引きこまれたからかもしれない。授業を受けていくなかで私はこのような事を考えていた。そしてレトリックというものについての興味と、自分もそれを、特に「気のきいた文句」をうまく使えるようになりたいという憧れを持つようになっていった。

最後に、この授業を「素敵な授業」として選んだ事に関して、先生についても少し触れておきたい。私はあまり大学教授の研究室の中を覗いたことがないので、

他の先生方はどうなのかは知らないが、鄭先生の研究室にお邪魔した時、部屋の中ではクラシックの音楽がかかっていた。先生は僕らにナントカという紅茶を入れてくれた。・・・優雅だ、と僕は思った。またレポートを書くとき、一人称は「私」で書くが、この時ばかりは「僕」と書いてしまう程先生と自分に差を感じた。しかし僕はこの春から、鄭先生の下で卒業研究に取り組むことに決めた。「素敵なゼミ」にできるよう、自分を磨いていきたいと思う。

佐藤 千穂 (教育学部2年)

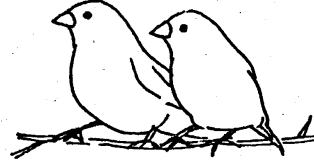
新しい知識の扉を開くことは、とてもワクワクすることですね。大学で二年過ごし、たくさんの素敵な授業、素敵な先生と出会うことができました。

専門科目では、詩や書を味わったり、言葉を深く、言葉と親しむ授業を楽しんでいます。教養科目では、千潟という自然の素晴らしさを知ったり、宇宙の始まりやその途方もない広がり、人間のちっぽけさと生命の尊さを感じたり、一方で人間社会の常識を疑ってみる見方を学んだり、様々な知識に触れることができました。その教養科目から一つを紹介したいと思います。

「你们好！（みなさんこんにちは）」いつも穏やかなこの一言で始まる楊英華老師（先生）の「中国語」の授業です。大学に入って初めて学んだ中国語。面白くて「中国語Ⅲ」まで受講しました。日本語を習うとき、「あいうえお」から始まるように、中国語も発音から始まります。初めは皆の前で発音をする、発表をすることに対し、間違えたら恥ずかしいなとモジモジ小声でした。そんな私に先生は、「努力していても勇気がない。恥ずかしい。それは私の若い頃ととても似てるの。だから頑張ると思う。応援したくなるの！」と真剣な目で話してくれました。間違ってもいい、積極的に中国語を知ろう、知って楽しもうという気持ちを持つことができました。中国で流行している歌やドラマ・中国料理を紹介するビデオなどを取り入れたり、

「カラOK (カラオケ)」、「減肥 (ダイエット)」など内容が身近な気になるテーマだったり、楽しく中国語を習うことができました。「何でも、どんなことでも質問して。中国のこと、分かってもらいたいです。」と先生は言います。異国の文化は知らないことだからこそ、知る喜びがたくさん待っているのです。私はこの素敵な先生と授業で、それを強く思いました。

新しい知識との出会いはワクワクします。皆さんもたくさんのワクワクに出会えますように！



教 養 教 育 古 今 東 西

「稼ぎ」と「つとめ」ができて一人前

「稼ぎ」と「つとめ」ができて一人前。このことばの意味を実感できたのは、結婚して子どもが授かるからですから、たいして大きなことは言えません。子どもを育てていくと「つとめ」が形としてはっきりしてきます。「稼ぎ」とは、労働をしてその対価としてお金をもらい、それによって自分や家族を養っていくことです。このような経済活動なしに、わたしたちは生きていけませんし、この営みは与えられた寿命を全うするまで続きます。

では「つとめ」とは何でしょうか。一言で言うのは難しいのですが、わたしは、「自利利他」という仏教の言葉をかなり気に入っていますが、「利他」に相当するのではないかと勝手に解釈しています。ひとはだれでも自分のためならがんばれるのです。しかし、他人のために喜んでなにかをする、なにかができる。それが「つとめ」ではないでしょうか。捨ててあるごみを拾う。困っている人には手をかしてあげる。地域コミュニティの活動に参加する。子どもを育てる、等々。「つとめ」とは、自分を取り巻く他人や社会と積極的にかかわり、ともになにかをして、自分の人生を豊かにしていく営みです。

大学で学ぶことの目的は、専門性をみがき、あるいは資格をとり、それを武器に「稼ぎ」ができるようになること、と考えている人が多いのではないのでしょうか。実はわたしもそうでした。わたしは機械工学が専

門でしたので機械装置の設計や物づくりの方法を学び、そして製造会社に就職し、エンジニアとして「稼ぎ」を得たいと考えました。その当時はなぜ大学にパンキョウ（一般教養科目）と呼ばれるゴミ科目があるのか、十分に理解できないまま、必要最小限の単位数を確保したものです。

「つとめ」の源は教養にある。これが、わたしが今言いたいことです。大学在学中の数年ですべてが身につくはずはありません。自分のこと以外のいろんなことに興味をもって、その扉をたたいてみる。そこに「つとめ」のタマゴができるのです。タマゴがあればニワトリになる可能性が生まれます。わたしの場合は、タマゴのひとつが教養科目の英語でした。ビートルズの音楽を題材にした英語の授業には欠かさず出席しました。それが、のちにイギリスに留学するきっかけになり、30年たったいまは留学生をお世話する楽しみにつながっています。

一人前にはなかなか出来ませんが、みなさんも、ぜひ学生時代に「つとめ」のタマゴを探してみてくださいはいかがですか。そんな視点で教養科目を眺めてみるのもいいのかもしれない。

(工学部附属超塑性工学研究センター 前川 克廣)

掲 示 板 コ ー ナ ー

掲 示 板 に 要 注 意 ！

学生用掲示板は、学生諸君に連絡事項を伝達するための唯一の方法です。

掲示板には、大学の行事、休講のお知らせ、教室の変更、学生呼び出し、試験及び授業に関することなど、学園生活に必要な事項が掲示されます。

掲示板を見ないことにより、所定の期日までに手続きなどができず、結果として不利な取り扱いを受けることもあります。また掲示板は、屋外掲示板と電子掲示板がありますので、登下校、授業の合間の際に掲示を確認してください。

－ 毎日1回は必ず見ましょう －

自 転 車 の 駐 輪 に つ い て

自転車の駐輪に際しては、歩行者や車輛等の通行に支障をきたしますので、定められた場所に駐輪してください。特に道路上の駐輪については、事故の起こる危険がありますので、迷惑のかからないように注意してください。

学生諸君の御協力をよろしくお願いいたします。

携 帯 電 話 の 使 用 に つ い て

講義棟内や公共の場では、携帯電話の電源を切っておくか、マナーモードに設定しておくようにしてください。

つ ぶ や き

2年前に、インドIT産業の中心といわれ、インテルの工場があるバンガロール市からバスで3時間ほど南（インド洋側）にある古都マイソル市のマイソル大学でラマヌジャン研究集会有ったので訪れたことがあった。

本学が大学の体をなしていないとつぶやいているのを聞いたこともあったので、比較する大学が違えばそうだろうけれども、マイソル大学の図書館は建物自体は大きいが所蔵している本も古く、量も少なかった。それに比べれば茨城大学の図書館のほうが建物も本も新しい。パソコンが使えて、そのうえエアコンが入っているのだから、勉強するにははるかに良い環境に思えた。さらに都心には近くて日帰りできるほどなのだから、それほど不便というほどのこともない、と思える。

キャンパスはマイソル大学の方がはるかに広かっ

たが、しかしマラソンの練習をするということでもなければ、そんなことはどうでもよいだろう。しかしながら、耳飾りをしてたばこを吸っている男子学生などを見かけたことはなかったし、茶髪に染めたり、下着、シャツを出しているような学生などいかなかった。この4、5年本学でそのような学生があまりにも多く見かけられるようになったので、特にそう感じた。もっともマイソルの学生達はそのようなことにお金を費やす余裕など無いように見受けられた。そんな状態にある中で、皆懸命に努力、勉強しているように見えた。物質的に少しばかり豊かでも、ひどく精神的貧困の差が存在していることを感じざるを得なかった。

‘こころの豊かさ’の教育を無駄であるようにいう人は多いけれど。

(高野 勝男)

発行日 平成16年4月
発行者 茨城大学 大学教育研究開発センター
水戸市文京2-1-1
029 (228) 8415 (学務課教養教育係)